

北信教育事務所だより 第6号

令和元年12月24日(火)

～教師・学校・地域がつながるために～

十一月二十六日・二十八日
第三回日々の授業改善研修が
行われました。

英語の文法事項は、
言語活動を通して気付く
るように、場面設定を細
かに考えたいです。

自らの実践を発表し、成果と課題に
ついて意見交換しました。

理科では、電気・溶解など目では見にくい事象を、見える形で表す工夫をするとういと気付きました。

自ら課題に気付き

私も同じことで
悩んでたんですよ。

明日からの実践のヒントを得る

体を使って音の高さを
表してみよう。

音楽の楽しさを
全身で実感するのが
ポイントですね。

評価する視点を複数もって、
子どもの小さな育ちも見逃
さないようにしたいです。

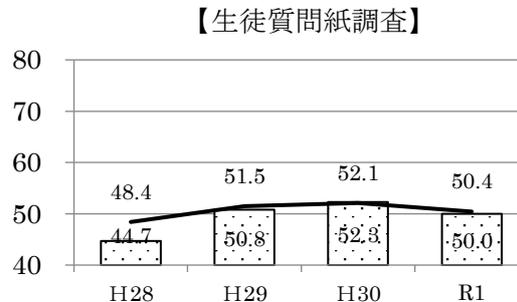
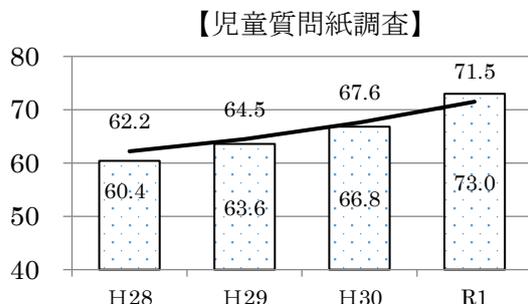
笑顔で帰る受講者の表情から、明日
からの実践を楽しみにしている
気持ちが伝わってきました。

受講者の感想から

- ・私の授業は、題材を貫く「めざす子どもの姿」がはっきりしておらず、単元の最初と最後でねらいがずれていることに気付きました。周りに同じ教科の先生がいないので、共に学べるので参考になりました。(家庭科)
- ・単元の本質や楽しさは一つだと思っていましたが、児童の習熟度によって変わることを学びました。その子に合った課題を設定したり、挑戦する場を選べるようにしたりして実践してみようと思います。(体育科)
- ・3回とも参加しました。授業力を向上させると、日々の授業が楽しくなることを実感しています。(数学科)

家庭学習を子どもがマネジメントする工夫をしてみませんか？

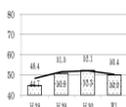
小学校では、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における児童質問紙調査において、質問番号17「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」について肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度よりも増加し、全国平均よりも高い数値となりました。



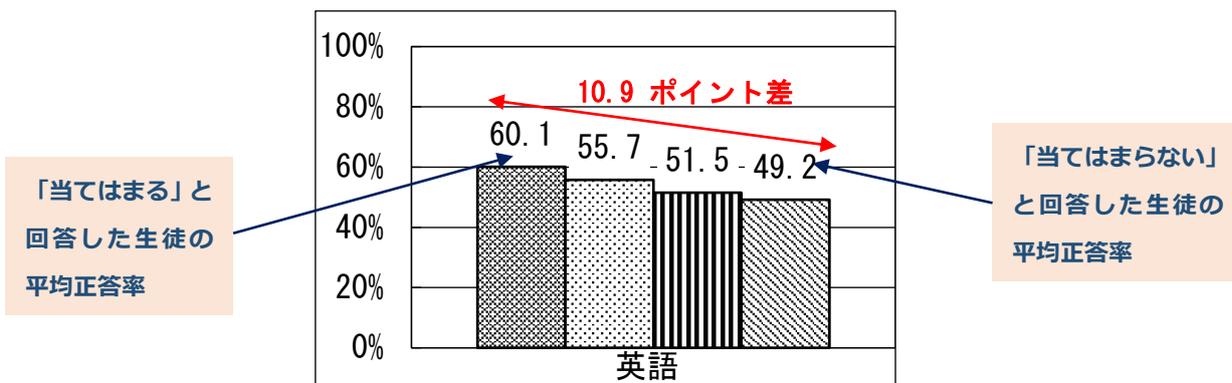
棒グラフ：県平均，折れ線グラフ：全国平均

例えば、帰りの会の時間の中で、帰宅してからの過ごし方について計画を立てる時間を設け、時間や内容を可視化することでタイムマネジメントの意識を高める取組をしている学校もあります。各自の課題に合わせて自分で計画して取り組める家庭学習となるよう、教科会や学年会、職員会議等で検討を進めましょう。

質問紙調査と教科の調査結果をクロスしてみると…



下のグラフは、長野県の平成31年度（令和元年度）中学校全国学力・学習状況調査における生徒質問紙と英語調査のクロス分析の結果です。このことから、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答している生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られます。また、国語や算数・数学においても同様の傾向が見られます。



今年度の「質問紙調査報告書」には、この他にも、学習にかかわる質問において、「読書が好き」、「新聞を読んでいる」などと回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることが報告されています。家庭学習を含む家庭での学びに係る児童生徒質問紙調査と学力のクロス分析にも注目し、取組の改善につなげていきましょう。

地域と共にある学校づくり

信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

をご活用ください

NO 10 (令和元年12月) 北信教育事務所生涯学習課

他の学校・地域は、
どんな活動をして
いるのかな？



コミュニティスクールの
充実に向けた活動が
知りたい

そんなときは

「北信教育事務所コミュニティスクール活動だより」で検索してください

北信教育事務所生涯学習課では「信州型コミュニティスクール北信地区活動だより」を発行しています。本たよりは、北信地域のコミュニティスクールの活動事例を紹介するもので、北信教育事務所のホームページに掲載しています。平成30年度から始まり、現在第10号までがアップされています。

コミュニティスクールの充実に向けて、参考になる事例が掲載されています。ぜひ、ご活用ください。

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。研修や実践をされる際、お気軽に連絡していただけましたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 担当：岡田
〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1
Tel : 026-234-9552 E-mail : hokushinky@pref.nagano.lg.jp



北信教育事務所 生涯学習課からのご案内

みんなでパラスポーツ・ニュースポーツを体験してみよう！



ポッチャ



自然とコミュニケーションが増え、運動の得意・不得意に関わらず、誰もがヒーローになれる、みんなが楽しめるスポーツ！

ブラインドサッカー



相手に言葉で伝えることの大切さや難しさを体験することのできるスポーツ！人権教育にもつながります。

ポッチャ・ブラインドサッカー・ワンバウンドふらばーるバレーなど、パラスポーツやニュースポーツの用具貸し出しや指導者派遣を行っています。お気軽に、ご相談・お問い合わせ下さい！

スポーツ振興担当：窪田 TEL 026-234-9552

信州型ユニバーサルデザイン（信州型UD）の推進 シリーズ③ ～信濃町立信濃小中学校～

UD リーダーは、1学年担任の赤池秀臣先生です。信州型UDの窓口「合理的配慮」の中に、着眼点「学習状況の科学的アセスメント」があります。多層指導モデルMIM(ミム)・読みのアセスメントを定期的に繰り返す授業実践を紹介します。

アセスメントの実施

AさんとBさん、拗音(やゆよ)がまだ理解できていないみたい。日々の授業の中にも、ゲーム的な活動を取り入れる等、定着を図りましょう。(アセスメントを活用して実態把握)



授業の中で“楽しく”読みの学習

特殊音節の言葉カードリレー。正解したときは満面の笑み。



(答えは) 2番



毎月のアセスメントで定着を再確認

日々の活動の中で特殊音節の表記が、どこか間違っている時間割。みんな楽しみながら見つけています。



撥音「っ」の入った言葉を集めてみました。
[っ]の言葉の木





特殊音節の言葉を使ったフルーツバスケットです。

【学習状況の科学的アセスメント と MIM】

信州型UDでは、「先生方の経験に基づく知恵と科学的に実証された効果的な指導方法を組み合わせる」ことを念頭に置いています。信濃小中学校では、この両面から子どもたちの学習状況を適切に把握する一助として「MIM」を活用しています。アセスメントと指導を連動させ、学級全体を対象としつつも、個のニーズを見失わず、根拠に基づいた指導をめざしています。 ➡ MIMの詳細は「MIM 特総研」で検索

「キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔」 vol.4

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します

小学校四年生外国語活動、単元「What do you want?」での場面です。I先生は、お店でのやり取りの場面やできあがったピザを友達にプレゼントする場面を言語活動として位置付けました。Yさんは、どうしたらKさんが自分で作ったピザを喜んでくれるか考えました。

オリジナルピザを作るために、I先生は「Tomato, please.」とお客になったYさんは自分が欲しい食材を順調に集めていました。◆子供たちは本時より前の活動で友達の好きなピザの食材を尋ね合っていました。◆今日はその情報を基に友達のためにオリジナルピザを作ります。ただ、誰に渡すのかは秘密です。「自分からピザをもらえませんか」「自分が作ったピザは喜んでもらえるか」「子供たちはワクワクしながら食材を集めます◆今度はYさんが店員になりました。◆ところが、店員の言葉がなかなか出てきません◆「えっと、次は何だっけ?」「How many?だよ」「ああ、How many?だよ」「Two, please.」「Twoだね。えっとHere... Here...何だっけ?」「Here you are.だよ」◆困ったような表情のYさんでしたが、お客のKさんのおかげで何とかお店のやり取りができました。

◆いよいよピザをプレゼントする場面。初めにI先生が一人の女の子にピザを渡してみせます。Yさんは、I先生がどのように渡すのかをじっと見ていました。I先生は「This is for you. You like mushroom!」と言って、その女の子にキノコたっぷりのピザを渡しました。◆女の子が喜ぶ様子を見たYさんは、「何て言おうかな」とつぶやきました。Yさんは実は、いつも優しく接してくるKさんのためにピザを作っていました。◆どのようにしたらKさんが喜んでくれるか考えていました。◆YさんはKさんのところに行き、しばらく考えてから「I like mushroom. I like spicy source.」と言ってKさんにピザを渡しました。Kさんに渡したピザにはキノコも辛いソースもありませんでした。◆でも、Kさんは「あつ」と言って、「僕の嫌いなものが入ってないね。ありがとう」と、笑顔でYさんに伝えました。Yさんが伝えたい思いやりの気持ちをKさんがしっかりと受け止めてくれました。◆本来は「You don't like mushroom.」と伝える場面でしたが、I先生は二人のやり取りを敢えて止めません。YさんとKさんが二人でピザを手に持ち、嬉しそうに眺めている様子を、I先生は笑顔で見守りました。

【このエピソードから大事に考えたいこと】「友達のためにピザを作る」というI先生の場面設定は、お店のやり取りで自分が欲しい食材を集めることに必要感を生み出しています。またI先生が女の子に言葉を添えてピザを渡した場面は、Yさんが「どうしたらKさんに自分の思いを伝えられるか」と話す内容を工夫し、自分なりの言葉を考えて伝えようとする姿につながりました。